

地域連携クリティカルパスのご案内

地域連携クリティカルパスとは？

大阪南医療センターは、国指定のがん拠点病院として「大阪府がん対策推進基本計画」に則ってがん患者さんの治療を行っています。この計画において、がん医療の連携体制の構築、つまりがん拠点病院と地域の診療所や病院の先生(以降、かかりつけ医と言います)との適切な役割分担による診療連携協力体制づくりが重要とされています。具体的には、**かかりつけ医との診断・治療の連携協力と共同診療体制(チーム医療)を密に構築すること**です。

今回、患者さんは一定期間毎に画像検査(レントゲン・CTなど)や採血検査を行いながら経過観察を行う予定です。

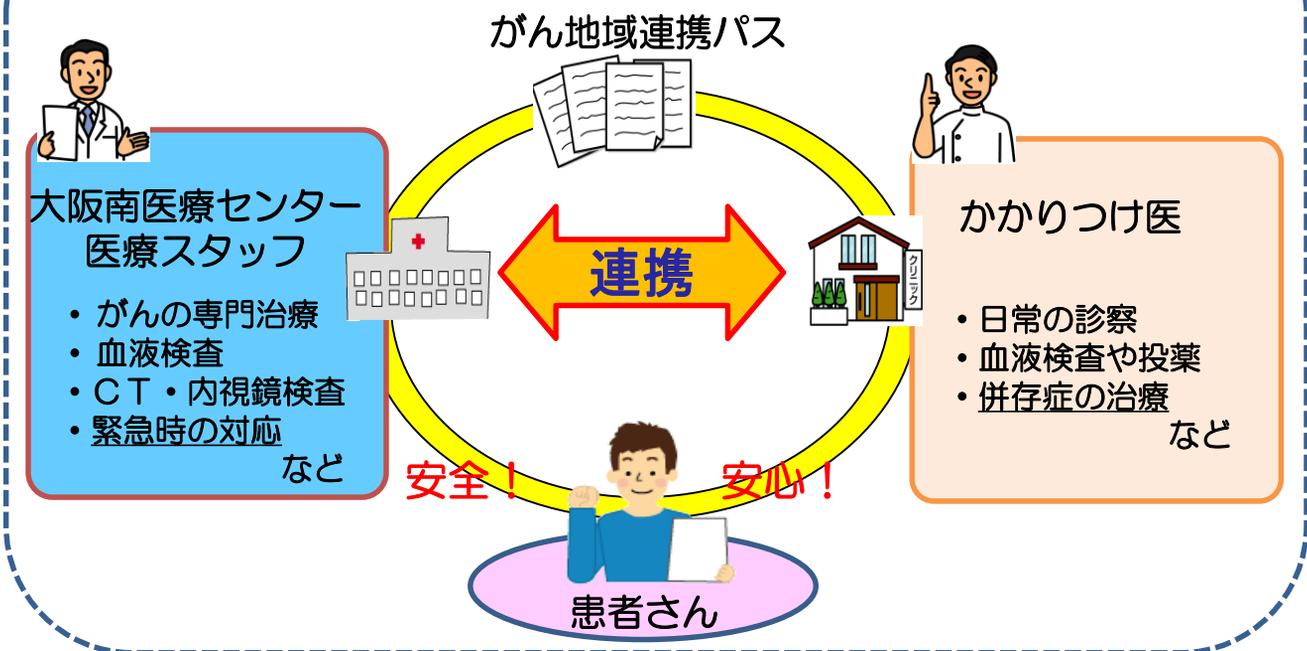
その際にこの地域連携クリティカルパスを活用して、大阪南医療センターとかかりつけ医と共同で患者さんの病状等を診ていくシステムを行います。

※クリティカルパス

病気の経過を予測して一番いい診療の計画を立てて、患者さんに納得していただいたうえで医師・看護師・薬剤師等が協力して診療にあたることです。



【大阪南医療センターとかかりつけ医の役割】



患者さんを中心に地域の医療機関と情報交換を行い、より良い医療と安全を患者さんの負担の少ない形で提供する仕組みです。

地域連携クリティカルパスの利点

- 長い待ち時間や通院時間の短縮による負担軽減になります。
- 複数の医師による診察により、異常の早期発見やきめ細やかな対応が望めます。
- かかりつけ医に慢性疾患を診察してもらうことが可能です。
- 患者さんやご家族のお話をもっとお聞きできるようになるものと考えています。



地域連携パスが患者さんの療養生活や診療方針に合っているかどうかを吟味し、利用する方が良いと考えた場合にお勧めします。

患者さんやご家族と十分ご相談しながら、運用をすすめます。途中で中止することもあります。

もし抗がん剤の治療中に体調不良や副作用が生じた場合は、大阪南医療センターに救急受診が可能です。

ご不明な点や心配があれば、いつでもご相談ください。

なお、在宅生活を送るにあたり、ご不安やお困り事がある場合は、「がん相談支援センター」へご相談していただけます。

国立病院機構 大阪南医療センター

TEL 0721-53-5761 (代表)